

ETロボコン2009審査基準

2009/4/20 Ver1.0

審査対象		審査内容	
モデルの書き方	正確性	採用した表記法にしたがっているかを審査します。 UML以外の表記法も可能。	
	理解性	図の構成	モデルが表現したい対象に合致した図で構成しているかを審査します。 以下の3つの側面に対して各1つ以上の図を提示してください。 機能面 UMLではユースケース図などが該当します。 構造面 UMLではクラス図、オブジェクト図、パッケージ図などが該当します。 振る舞い面 UMLでは状態マシン図、シーケンス図、コミュニケーション図などが該当します。 ここでは、図の内容自体は問いません。内容については、後述の「モデルの内容」で審査します。 これ以外の図に対しては、それが効果的と判断された場合に限り、後述の「オリジナリティ」部分で評価します。
		図の見やすさ	図を見ただけで理解しやすいかを審査します。 具体的には、以下のような内容を審査します。 レイアウトは適切か 要素数は適切か 色分け等による可読性の向上
		図の補足	モデルをわかり易く伝えるように工夫しているかを審査します。 具体的には、以下の内容を審査します。 コンセプトシート モデル全体の説明 訴求ポイント 補足記述 補足記述とは、表記法以外で記述された(自然言語、図等)モデル内容の説明を指します。 モデリング方針 モデルの構成、各図についての説明 アルゴリズムや戦略の解説
	オリジナリティ	モデルやコンセプトシートに対して、モデルの可読性を上げるための独自の工夫があれば、それが効果的と判断された場合に限り、審査において加点されます。	
モデルの内容	設計品質	ソフトウェアとして、高品質な設計がなされているかどうかを審査します。	
	機能面	機能面	ソフトウェアが製品の利用者に対し、どのような機能を提供するかを記述してください。 UMLではユースケース図などが該当します。 具体的には、以下の内容を審査します。 すべての機能が網羅されている。 機能が妥当であること。 利用者から見て意味・価値のある内容かどうかを審査します。 以下は「妥当でない」場合の例です。 抽象的すぎて利用者視点になっていない。 詳細すぎて利用者視点になっていない。 機能が多くなる場合は、グルーピングや階層化が実施されていること。 本大会では、モデルの提出枚数に制限があるため、機能の詳細内容や想定されるシナリオすべての網羅などは必要ありません。
		構造面	機能を実現するために必要な要素群を記述してください。 UMLではクラス図やオブジェクト図などが該当します。 具体的には、以下の内容を審査します。 すべての要素および要素間の関係が網羅されている。 要素および要素間の関係が妥当であること。 要素は、「概念」、「責務」、「情報」、「関数」など使用される設計手法によって異なります。 いずれの手法においても、要素の「凝集度の高さ」、要素間の「結合度の低さ」が重視されます。 要素が多くなる場合には、グルーピングや階層化が実施されていること。 UMLではパッケージ図が該当します。 本大会では、モデルの提出枚数に制限があるため、要素の詳細内容の記述は必要ありません。
		振る舞い面	機能を実現するために必要な要素群の振る舞い、要素間の相互作用、要素内部の振る舞いを記述してください。 具体的には、以下の内容を審査します。 要素群の振る舞い UMLでは状態マシン図、アクティビティ図などが該当します。 システム全体の振る舞いが記述されている。 振る舞いが動作要件を満足していること。 要素間の相互作用 UMLではシーケンス図、コミュニケーション図、タイミング図などが該当します。 特定の機能に対する要素間の相互作用が記述されている。 対象となる機能の実現可能性が判断出来ること。 要素内部の振る舞い UMLでは状態マシン図、アクティビティ図などが該当します。 特定の要素に対し、要素内部の振る舞いが記述されている。 振る舞いが妥当であること。 本大会では、モデルの提出枚数に制限があるため、すべての機能に対する記述は必要ありません。
		トレーサビリティ	機能面、構造面、振る舞い面の各図に記載されている内容が一貫しており矛盾のないこと。 たとえば、以下のようなケースはNGと判断します。 3つの図が揃っていない。 構造面で記載されていない要素が、振る舞い面の図に登場している。 振る舞い面で記述されている機能が、機能面に表現されていない。
	オリジナリティ	上記以外の図に関しては、それが効果的と判断された場合に限り、審査において加点されます。	
性能	モデルから読みとれる予測性能について、その有効性や実現可能性などを審査します。 具体的には、以下のような内容を審査します。 走行戦略 アルゴリズム 技術要素 オリジナリティ なお、この項目については、従来のモデル審査を行う審査委員とは別に、性能面に特化した審査を行う審査チームを別に組織し、そこで審査を行います。		